

令和6年度

八代市健康づくり推進協議会 会議録

令和6年10月3日 作成

八代市健康づくり推進協議会会長 山口 透

令和6年度八代市健康づくり推進協議会会議録

開催日時	令和6年8月21日<水> 13:30~15:00
開催場所	八代市保健センター 1階 集団健診室

■出席委員

会長	山口 透	委員	福田 民男	委員	松本 博昭
副会長	三栗野 恵美子	委員	塩崎 重則		
委員	前田 洋憲	委員	木村 鞘子		
委員	佐々木 本瑞	委員	宮崎 智子		
委員	有田 明美	委員	緒方 敬子		

■事務局出席者

役職	氏名	役職	氏名
健康福祉部長	福本 桂三	健康推進課 こども保健係長	石井 薫
健康推進課長	坂井 健治	健康推進課 妊産婦保健係長	栄 陽子
健康推進課長補佐	守田 直美	健康推進課 地域保健係長	榎本 純子
健康推進課主幹兼 成人健診係長	小島 泰子	健康推進課主幹	島 秀信
健康推進課 健康推進係長	時枝 法子		

■資料

- ・令和6年度八代市健康づくり推進協議会次第
- ・令和6年度八代市健康づくり推進協議会委員名簿
- ・八代市健康づくり推進協議会設置要領
- ・八代市保健計画（第二次）・八代市自殺対策計画（第一期）総括【資料1】
- ・八代市保健計画の目標設定と現状【資料2】
- ・八代市保健計画（第三次）・八代市自殺対策計画（第二期）概要版【資料3】
- ・八代市こども家庭センターパンフレット【資料4】

■公開状況 公開（傍聴者数 0名）

■議事録

1. 開会（委嘱状交付）
2. 健康福祉部長あいさつ
3. 会長・副会長の選任
4. 会長・副会長あいさつ
5. 議事

◇審議事項

- (1) 八代市保健計画（第二次）・八代市自殺対策計画（第一期）について
- (2) 八代市保健計画（第三次）・八代市自作対策計画（第二期）の概要

《事務局説明》

事務局より【資料1】【資料2】【資料3】について説明あり

<議長>

ただいまのご説明について、何かご質問・ご意見はありませんでしょうか。

<A委員>

今、説明の中で、なぜ「自死」ではなく「自殺」という言葉が使われたのでしょうか。

<事務局>

確かに、最近は「自殺」という言葉より「自死」という言葉を使う傾向にあります。今回の自殺対策計画は、国の大綱等に合わせて「自殺」という言葉を使いましたが、ゲートキーパー養成講座などにおいては、「自死」という言葉を使っています。次回、自殺対策計画を作ります時は、今回のご指摘を踏まえて策定いたします。

<A委員>

何が正しいというのではないと思います。「自殺」と「自死」、それぞれに意味があり、議論が行われているようです。

<議長>

他に何かございませんか。

<B委員>

【資料1】3ページの外国人妊婦割合についてですが、どういう方を外国人として取り扱われているのでしょうか。データの根拠を教えてください。

<事務局>

日本国籍ではない方を、すべて外国人としています。妊婦さん自身が外国籍の方です。

<議長>

他に何かございませんか。

<C委員>

色々な計画があつて素晴らしいと思います。住民への啓発・周知についてですが、どういった方法でされているのでしょうか。

<事務局>

市報、ホームページ、フェイスブック、エックス、ラインといったものになります。最近では、熱中症アラートや食中毒注意報といった緊急情報をインフォカナルを使ってお知らせしています。紙媒体と電子媒体の両方で、幅広い年代の方々に対応しています。

(3) 各団体の健康づくり活動の取組状況や課題について

<議長>

これから先は、ご出席の各委員様から、各団体で健康づくり関係で実施されている内容や課題などがありましたら、簡単に3分程度でご説明をお願いします。

<C委員>

私たちは、八代市の計画に沿って治療や健康推進を進めています。

これは私の個人的意見になりますが、特定健診には懐疑的です。40歳から74歳まで受けることになっていますが、実際には3分の1くらいの人しか受診していないので、果たしてそのデータがどこまで信用できるものなのかということです。

それと、患者さんは生活環境や年齢等人それぞれに合った治療が必要です。病院では特定健診より詳しい検査も行っていますが、特定健診の検査結果の数字だけを見て、あなたはどの病院に行ってくださいというような一律の指導については、今後改善してほしいと思います。

<A委員>

私たちは、国で定められている年2回の健康診断、歯科検診、食育を通して食の大切さを教える取り組みを行っています。

<B委員>

私たちは、健康診断の徹底、ラジオ体操熊本弁版、DX 担当設置により業務の軽減、

メンタルヘルスといった健康的な経営の推進に取り組んでいます。

<副議長>

私たちは、出前講座の実施、お口の健康（歯の磨き方）、健康診断推進等各校区で健康づくりを行っています。歯が一番大事です。会に出てこられる方は比較的健康です。

<D委員>

私たちは、健康について全体で何をやっているかは不明です。私の校区では、保健センターの保健師さんを招いて校区のふれあい祭りで血圧測定、体脂肪測定、栄養指導、みそ汁の塩分測定を行っています。また、歩け歩け大会等も実施しています。

<E委員>

私たちは、65歳以上が対象ですが、会員になるには会費が必要です。長寿のために会員以外の方へ活動を広め、連携・連帯を図ることが大切だと考えています。

<F委員>

私たちは、大人から子どもまで携わっているので、委員各々が自らの健康について常に頭に入れるようにしています。新型コロナウイルスのワクチンについては、全て接種するようにしています。

<G委員>

私たちは、イベントでの栄養相談、ブルーサークルメニュー・健康Aランチ・くま食のアドバイス等を行っています。また、本年度10月26日に市民公開講座で腸活についてお話する予定です。

<H委員>

私たちは、熊本県保健医療計画、くまもと21ヘルスプランに基づいて健康づくりを推進しており、今年度から第8次熊本県保健医療計画がスタートしています。八代圏域では、九つある重点項目のひとつとして生活習慣病の発症予防と重症化予防を掲げており、ここ数年新型コロナの関係でほとんど取り組みができていませんが、糖尿病対策として、糖尿病連携推進会議などの関係機関団体と連携強化を図っています。

健康づくり対策としては、イベント等で周知啓発を行っています。食生活・食育については、食育推進会議を開催したり、健康に配慮したメニューの提供を行うくま食健康マイスター店の指定店舗の拡大などに取り組んでいます。働き盛り世帯の健康づくりとしては、しばらく実施できていませんが、地域職域連携会議の開催により関係者の方々と取り組みを進めていきたいと考えています。

< I 委員 >

私たちは、まず健康づくりについてですが、いきいきサロンという高齢者の方が集まる会の中には、コロナ禍で休止になった後、再開できていないところがあります。会の運営のお世話をする人の荷が重くて成り手が少ない等課題もありますが、徐々に再開してきている状況です。それとは別に、みんなと交流して体を動かし健康づくり行うことを目的とした地域での気軽な集まりの普及を進めています。

自殺対策については、生活困窮者の悩みごと、困りごと、仕事に就けない等の相談に応じる自立支援事業を行っています。命をつなぐという意味におきまして、緊急食糧支援事業を行っており、市民の方々の寄付で支えられています。また、高齢になってお金の管理ができない人等と契約をして、金銭管理・書類整理を行う事業を行っており、徐々に利用者が増えてきている状況です。

< 議長 >

私たちは、先ほど歯が一番大事というお話がありましたが、体はつながっているのでどこでも大事です。程度の差はありますが、歯周病は30歳以上は大体あります。重篤な人達にも周知・啓発していくことが大事です。乳幼児の虫歯予防から青年期の歯周病、高齢期の口腔機能低下症まで、もう少し力を入れていかないといけないと思っています。

コロナ禍の時は会議が書面決裁でしたので、皆様のご意見を聞く機会があまりありませんでした。何か他の団体に聞いてみたいことがありましたら、どうぞよろしくお願ひします。

< B 委員 >

自殺者数についてですが、令和5年度19名となっています。内訳を教えてください。

< 事務局 >

19名の内、男性が14名、女性が5名となっています。年齢につきましては、人数が少ないため正確に公表できませんが、65歳以上の方が多い傾向があります。

< B 委員 >

個人情報などの問題があるかとは思いますが、どんな人たちが自殺しているとわかるとその対策ができます。例えば、うつについては、隠して就職している方、離婚でうつになっている方、ケアマネさんのうつ、高齢者の介護うつ等色々あり、メンタルヘルスについて考えていくことは大切だと思います。こういった会議に参加しているので、参考になればと思いました。

<事務局>

お配りしてある自殺対策計画（第二期）52ページから本市における自殺の現状がまとめられていますので、そちらをご参照ください。こういった方たちが多いか、令和3年については記載しています。

<C委員>

私たちは、目の前に患者さんがいて、目の前に苦しんでいる人がいます。精神的に病んでいる患者さんもいます。私たちはデータ上の患者さんを診ているわけではなく、目の前にいる患者さんを診て対処しています。

特定健診は、健康に対して意識がある人でも5割程度しか受けていません。特定健診が良いか悪いかは別として、この辺を考えていけないと思います。

診療所では、その人にあった対応をしているはずですが、八代市と違って八代郡は規模が小さいため、活動をしていく上で困ったことがあります。特定健診の受診率を上げることによって、改善を図れたらと思っています。

また、私たちの方でも、第8次熊本県保健医療計画に沿った計画を立てているところ
です。

<議長>

みなさんありがとうございました。こころの内を吐き出されると、こころの健康が保たれます。今日は色々なお話を聞いてよかったと思います。

6. 事務連絡

- ・八代市こども家庭センターについて
事務局より【資料4】の説明あり

7. 閉会